



ふかめよう! 道徳科 実践編



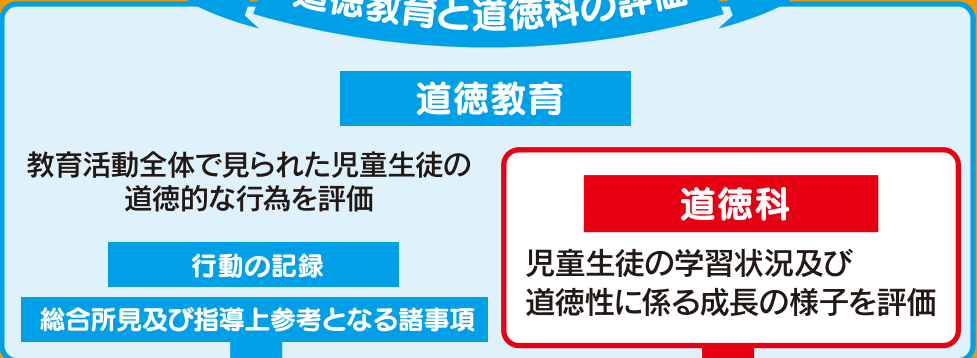
本資料は、県教育委員会がこれまでに作成した「はじめよう! 道徳科」、「ふかめよう! 道徳科」、「はばたく群馬の指導プランII」を踏まえ、以下の内容を紹介したものです。

- ・文部科学省・県教育委員会の指定地域における、指導と評価の一体化や大きくりなまとまりを踏まえた評価についての実践例
- ・道徳教育研究協議会で出された、各学校で行っている評価のための工夫例

各学校や児童生徒の実態に応じて、指導と評価を行うことが大切です。



道徳教育と道徳科の評価



評価の公的な文書である「指導要録」への記述

群馬県 道徳科

実践例① 「小学校 2年」

邑楽町教育委員会（小学校）の例



年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

C 公正、公平、社会正義

「自分の好き嫌いとらわれないで接すること。」

ねらいと評価の視点を決定

- 【ねらい】 あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度の問題点について考えることを通して（**主な学習活動**）、自分の好き嫌いとらわれず、誰に対しても分け隔てなく公平に接しようとする態度を養う。
- 【評価の視点】 あい子さんとななみさんに対するゆかさんの態度について考えることを通して、どんな相手にでも公平な態度や声かけをする大切さについて、自分との関わりで、多面的・多角的に考えている。（方法：発言、ワークシート）

事前準備

主な学習活動で見られる学習の状況を評価の視点としています。

主題名 こうへいな たいど 内容項目 C 公正、公平、社会正義 教材名 「ドッジボール」

過程 主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

導 入	<p>1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。</p> <p>○良い言葉・悪い言葉と聞いて、どんな言葉が思い浮かびますか。 ○ドッジボールの時に出てくる良い言葉と悪い言葉は何でしょうか。</p>	アンケート結果▶
展 開	<p>2 教科書の教材文の範読を聞く。</p> <p>○ゆかさんは、どうしてななみさんと同じチームになって「少しいやだな」と思ったのでしょうか。 S: 仲良しの友達じゃないから。 S: ななみさんは、運動が苦手だから。 ◇この状況は、仲間はずれでしょうか。 めあて: 心のなかまはずれについて考えよう。</p> <p>3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。</p> <p>○ゆかさんは、あい子さんに「おしかったね。」と言い、ななみさんには「ちゃんとにげてくれないと、まげちゃうよ。」と言いました。それぞれ言われた人の気持ちを考えましょう。 ◎なぜかける言葉が違ってしまったのですか。 S: 仲良しの友達と仲良しじゃない友達だから。 S: ゆかさんはたまたま当たっちゃったけれど、ななみさんは運動が苦手だから。 S: 心の中で仲間はずれをしまっているから。 ◇これは誰のために言った言葉でしょうか。 ◇アンケートで「気にしない」と答えた人は、どう思いますか。</p>	▶ペアでの意見交流
	<p>4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。</p> <p>○ゆかさんはどうしたら良かったでしょう。 S: 注意するならみんなにもすれば良かった。 S: ななみさんにも優しい言葉をかければ良かった。 ◇そうするとどんな良いことがあるのかな。 S: 悲しい気持ちになる人がいなくなる。 S: 聞いている人も良い気持ちになる。</p>	
終 末	<p>5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。</p> <p>○今日の道徳の授業の振り返りを書きましょう。 S: 悪い言葉を使うと嫌な気持ちになってしまうから、良い言葉をみんなに使いたい。 S: 誰が聞いても良い気持ちになる言葉を使いたい。 S: 心で仲間はずれをしていると悪い言葉を使ってしまうから、心の仲間はずれをしないようにしたい。</p>	

指導のポイント

授業

アンケート結果の提示と活用

- 自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に良い言葉と悪い言葉についてのアンケートをとり、結果を提示する。
- ドッジボールの場面で、「ちゃんとにげてくれないと、まげちゃうよ。」と言われたときの気持ちを聞いておき、中心場面で活用する。

評価の視点に関連

教材文の提示

- 内容を捉えやすくするため、教材文を読む前に登場人物を挿絵で紹介しておき、範読後に、人物像を確認する。
- ゆかさんの「少しいやだな」という気持ちの理由を問うことで、問題意識をもてるようにする。

ペアでの意見交流

- 多面的・多角的に考えられるように、中心発問についてペアで意見交流させる。相手を代えて、いろいろなペアで交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- 中心発問では、言葉かけの違いの理由を考えることで、心の中の差別に気付けるようにする。
- 「それは誰のためか」、「そうするとどうなるか」などの補助発問をすることで、一人一人の考えを深められるようにする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童のワークシートの記述(例)

まおさんみたいによい言葉をつかうと、言われた人をえがおにして、自分もえがおになると思った。わたしもこれからは、よい言葉をつかって友だちをえがおにしたい。

教師の見取り(例)

友達に良い言葉を使うことについて、自分の生活に照らし合わせながら、そのよさを考えていた。

評価の視点をもとに学習状況を見取りますが、他にも児童のよさがあらわれた場面は、記録しておきます。

評価

毎時間の授業の記録やワークシートの記述を蓄積

最近の授業では、登場人物の立場に立って考えることができているな。でも、いろいろな人の立場で考えることのできる児童は、まだまだ少ないな。



次の授業では、役割演技を取り入れて、いろいろな人の立場で考えられるように工夫してみよう。

大くりなまとまりを踏まえた評価

毎時間を見取りを生かして授業を改善していくことにより、意図的・計画的に一人一人のよさを認める評価をすることができます。

実践例② 「小学校 4年」

邑楽町教育委員会（小学校）の例



事前準備

年間指導計画、学習指導要領等で指導内容や系統を確認

A 個性の伸長

「自分の特徴に気づき、長所を伸ばすこと。」

ねらいと評価の視点を決定

- 【ねらい】 自分さがしをする「わたし」の行動や気持ちについて考えることを通して（主な学習活動）、人は成長することができることに気づき、自分を伸ばしていこうとする態度を養う。
- 【評価の視点】 主人公の行動や気持ちの変化を考えたり、長所についての考えをグループで交流したりすることで、今まで気付かなかった自分のよさや、短所を乗り越えようとするということについて、自分との関わりで考えている。（方法：発言、道徳ノート）

主題名 長所を伸ばす 内容項目 A 個性の伸長 教材名 「つくればいいでしょ」

過程 主な学習活動（○発問 ◎中心発問 ◇補助発問）

導入

1 本時で扱う道徳的価値について、問題意識をもつ。

- 自分の長所・短所はありますか。それはどこですか。
S:長所より短所がある人の方が多いな。
S:長所ってあまり見付からないな。

Q自分の長所はありますか？
ある 6人 ない 12人
Q自分の短所はありますか？
ある 12人 ない 6人

▲アンケート結果

めあて：長所を見付けるために大切なことは何だろう。

展開

2 教科書の教材文の範読を聞く。

S:主人公は自分に長所がないと思っているのだな。私と同じだな。

3 教材を通して、道徳的価値についての考えをもち、交流する。

- 友達の名前は何でしょう。
S:歌が上手い。リコーダーが上手い。走るのが速い。
◇どうしてそれが長所だと思っているのでしょうか。
S:みんなより優れているから。
○「わたし」は、お母さんに「つくればいいでしょ」と言われて、どう感じているのでしょうか。
S:何で、教えてくれないの。
○「わたし」は、どうして長距離の練習をやめなかったのでしょうか。
S:どんどんタイムが良くなってきて、うれしかったから。
S:すぐにやめたらいつもと変わらないから。

- S:愛子さんも頑張っているの、わたしも頑張れるかもしれないと思ったから。
◎「わたし」はお母さんに前に言われた「つくればいいでしょ」について、今度はどう思ったでしょう。
S:お母さんが言っていたことは正しかった。
S:長所は自分でつくることができる。
◇「わたし」の長所は、「わたし」が見付けた友達の長所と同じですか。
◇「わたし」のような長所が、自分にはあると思いますか。

グループでの
意見交流



4 道徳的価値に対する多様な意見を知り、学習のめあてについてもう一度考える。

- 長所を見付けるために大切なことは何だろう。
S:自分の弱い所を直そうとする。
S:友達と比べるのではなく、自分の良い所を見る。

終末

5 本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返る。

- 「わたし」から学んだこと、感じたことについて書きましょう。
S:人と比べなくても、自分の良い所はあるんだと思った。
S:苦手なことでも、努力したら得意になって、長所になることもあることが分かった。

指導のポイント

授業

アンケート結果の提示

- 自分のこととして課題に関心をもてるように、事前に長所と短所についてのアンケートをとり、結果を提示する。
○アンケート結果を比較することで、長所より短所があると答える人が多いことから、長所が自分では見付けにくいことに気付かせ、問題意識をもてるようにする。
○主人公に自分を置き換えて考えられるように、主人公の思いとアンケート結果を比較し、共通点を確認する。

評価の視点に関連

グループでの意見交流

- 多面的・多角的に考えを深めることができるように、中心発問について、グループで意見交流させる。

評価の視点に関連

中心発問と補助発問

- 中心発問では、長所をつくることに対する主人公の気持ちの変化を考えられるように、母から言われた言葉の意味をもう一度問う。
○「わたし」の長所と「わたし」が見付けた友達の長所を比較させることで、長所に対する一人一人の考えを深めさせる。
○自分自身との関わりで考えられるように、自身の内面的な長所について考えさせる補助発問をする。

評価の視点に関連

本時における学習状況の見取り

児童の道徳ノートの記述と教師の見取り(例)

【道徳ノートの記述】

わたしも今まであまり長所がないと思っていたけれど、これからは長所をもっとつくりたいです。目標ややりたいことを見つけていって、できることをもっとふやしていきたいです。

【教師の見取り】

長所と短所について、友達の意見も取り入れながら、自分のこととして前向きに考えていた。

評価

毎時間の授業の記録や道徳ノートの記述を蓄積します。各学期末に、学期を振り返る時間を設定し、大きくりなまとまりを踏まえた評価に生かしました。

【道徳ノートの記述】
今まであまりきまりについて考えていなかった。これからは、きまりだからではなく、周りの人のことを考えてすごしたいです。

【教師の見取り】
きまりについての問題に対し、悩みながらも一生懸命に自分のこととして考えていた。

大きくりなまとまりを踏まえた評価

1学期の授業の様子や道徳ノートを見ると、どの授業でも自分のこととして捉え、考えることができているようだ。



【評価(例)】

いつも「自分だったら」という視点をもって考えることができました。特に、「つくればいいでしょ」という授業では、長所をつくることに気づき、自分の長所を増やしていきたいという気持ちをノートに書いていました。

どうとく かせ 道徳ふい返しワークシート

○一番心に残った授業はどれですか？

1学期	題名(つくればいいでしょ)
理由	自分の長所は自分でつくれるということを知り、わたしも自分の長所をつくってふやしたいと思ったからです。

各学期を振り返るワークシート(例)

各学校における評価の工夫例(小学校等道徳教育研究協議会より)

ここでは、小学校等道徳教育研究協議会の班別協議で出された、各学校で行っている評価のための工夫例を一部紹介します。

道徳科の評価は、妥当性、信頼性等を担保するためにも、学校として集める資料や評価方法を明確にしておくことや、評価の視点などについて、共通理解を図ることが大切です。

Q1 学校として組織的に取り組むためにどのような工夫をしていますか？

各学年で作成した評価文や児童の記述の見取りを持ち合い、校内で見合う研修をしています。このことで、学年間の共通理解が図られました。

校内で共通の評価文例を作成し、それを参考に担任が一人一人の児童に合わせた文を作成しています。

全校で統一した道徳ノートを持たせています。学年の実態に合わせて、直接書かせたり、ワークシートを貼らせたりして活用しています。

ローテーション授業をし、複数の教員で多面的・多角的に児童の様子を見取るようにしています。

書くことが苦手な児童や発言が少ない児童の評価方法について、校内や学年で話し合い、共通理解を図りました。

Q2 児童の学習状況を把握するためにどのような工夫をしていますか？

ノートやワークシートの記述を蓄積して評価に生かしています。

見取りができていない児童がいる場合、活躍できる場を授業で意図的に設定し、その様子を評価します。

全体での発言が少ない児童は、ペアやグループでの発言を聞き取るようにしています。

小学校1年生の最初は、書くことが難しいため、ハートに色を塗ったり、心情円盤で表現したりできるようにしています。

学習状況を見取るため、名簿に評価の視点を書いた簡単なチェックシートを用意しています。

授業中に見取った学習状況は、座席表に記録するようにしています。

児童の考えを板書し、ネームプレートを貼ります。授業後に板書を写真で撮って、個々の児童のよさを記録しています。

Q3 大きくりなまとまりで評価するときどのような工夫をしていますか？

通知表では、学期ごとに評価の視点を決めて記述しています。
例) 1学期:学習状況
2学期:多面的・多角的
3学期:自分との関わりで

通知表は保護者に分かりやすいよう、「大きくりな学習状況」+「突出した授業の様子」を意識して書いています。要録は、大きくりな成長の様子を記述するようにしています。

ワークシートを蓄積するとともに、学期の終わりには児童が振り返って自己評価をする時間を設定しています。